

令和元年度医療人養成の在り方に関する調査研究委託事業  
「大学における医療人養成の在り方に関する  
調査研究委託事業」委託業務成果報告書

委託期間：令和元年12月25日から令和2年3月31日

一般社団法人 日本私立薬科大学協会

「大学における医療人養成の在り方に関する調査研究委託事業」  
委託業務成果報告

1. 業務の実績の説明

(業務実施体制)

業務実施に当たっては、日本私立薬科大学協会が窓口となり、本検討会議の正式名称を「6年制薬学教育制度調査検討委員会」とし、その下に幅広い分野で構成する「幹事会」を設置することとした。

採択後、直ちにそのための準備会を開催し、幹事会が発足できる体制整備を図った。

その後、幹事会を令和2年1月から3月までの間、3回開催したところである。ここでは、10～20年後の社会で活躍が期待される薬剤師像を想定し、現行コアカリの課題等を抽出、薬剤師像のあるべき姿を見出すことが重要なテーマであることを確認した。

第1回会議では、今後の進め方として、文部科学省や厚生労働省等の意見を踏まえながら取り組むと共に、医師、看護師等医療関係者の意見を聴取して行くこととした。

第2回会議では、次年度実施の具体的な事業として、ワークショップや医療関係者へのインタビューを実施することが決定した。

第3回会議では、現在、薬局・病院及び企業等で活躍している薬剤師を中心にワークショップを開催することが決定した。(令和2年5月17日(日)開催)

これを受けて、本年度事業として座談会を開催することとし、笠貫 宏先生(元東京女子医科大学学長)と幹事会メンバーによる座談会が実現した。

なお、幹事会委員(10名)は、以下のとおりである。

井上圭三(日本私立薬科大学協会会長)、伊藤智夫(北里大学学長)、奥直人(薬学共用試験センター理事長、帝京大学薬学部長)、小佐野博史(帝京大学薬学部教授)、白幡晶(城西大学理事・学長)、鈴木匡(名古屋市立大学大学院薬学研究科薬学部教授)、中村明弘(日本薬学教育学会副理事長、昭和大学薬学部長)、平田收正(大阪大学大学院薬学研究科薬学部教授)、本間浩(薬学教育協議会代表理事、北里大学副学長)、政田幹夫(大阪薬科大学学長)

(業務概要)

1) 6年制薬学教育のモデル・コアカリキュラム改訂に向けた調査研究

10～20年後に社会で活躍が期待される薬剤師像を想定し、現行コアカリの課題等を抽出、薬剤師像のあるべき姿を見出すことに重点を置くこととし、本年は3年計画の1年目として、コアカリ改訂に向けた調査等の準備を行った。

幹事会の議論を踏まえ、まずは薬剤師の資質や薬剤師に何を期待するかなど医師や看護師など他の医療関係者から意見を聴取し、現状や問題点を検証することとした。

具体的には、医師で元東京女子医科大学学長、薬学教育評価機構に関与された笠貫 宏先生と幹事会メンバーによる座談会を開催した。

ここでは、10年～20年後の薬剤師はどうあるべきか、医療人材としての薬剤師及び医療人教育としての薬学教育等について意見交換を行った。

今後も、他の医療関係者との座談会等を通して得られた課題等を共有し、ワークショップやアンケート調査等へとつなげていくこととする。

## 2) 薬学研究科4年制大学院の在り方に関する調査研究

大学院については、理想的な人材育成像に向けて課題を抽出し、4年制大学院の現状と将来像を提言することとし、本年は、大学院実態調査計画の立案等及び卒業生の動向調査の準備等について、幹事会において協議した。その際、現行大学院の教育プログラム、学位論文、研究テーマ、修了生の学位取得後の動向調査を行うと共に、海外の薬系大学の大学院の現況等を、調査する必要性が確認された。

今後は、ワークショップやアンケート調査等を通じて、意見集約を図っていくこととする。

2. 業務の実績

業 務 項 目	実 施 日 程				
	4月～11月	12月	1月	2月	3月
(業務実施体制)					
・ 準備会の開催 令和元年12月24日（火）開催		○			
・ 幹事会の開催					
第1回幹事会 令和2年1月 7日（火）開催			○		
第2回幹事会 令和2年1月29日（水）開催			○		
第3回幹事会 令和2年2月 4日（火）開催				○	
・ 座談会の開催					
第1回座談会 令和2年2月25日（火）開催				○	
(業務概要)					
1) 6年制薬学教育のモデル・コアカリキュラム改訂に向けた調査研究					
・モデル・コアカリキュラム改訂に向けた調査等準備			○	○	○
2) 薬学研究科4年制大学院の在り方に関する調査研究					
・大学院実態調査計画の立案等			○	○	○
・卒業生動向調査の準備等			○	○	○